

第1回 地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員等研修会 実施レポート

期日：令和6年6月19日（水） 参加者：61名（うち市町村・県立学校から30名）

地域学校協働活動推進員や地域連携担当教職員等、地域と学校をつなぐ関係者を対象に、『実践演習！「熟議」をファシリテート！』をテーマに研修を行いました。参加者は「熟議」体験を通じて、ファシリテートする技術や心得を学び、「熟議」そのものの必要性や実践を重視することの重要性を認識していました。

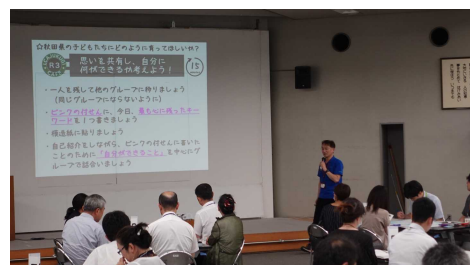


【前半 講義】

当センターの主査（兼）社会教育主事 **皆川 雅仁** が『「熟議」とは～参加型学習における位置づけとその重要性～』と題し、「熟議」について説明しました。最初に「支援」「連携」「協働」の違いを説明した上で、地域学校協働活動とは地域と学校が協働＝横並びで行うことであることを確認しました。そして、一般的な熟議と「熟議」の違いに触れながら、参加型学習の意義についてポイントを整理し、地域学校協働活動やコミュニティスクールを進めていく上で、目標共有や課題解決等を目指す話し合いの手法である「熟議」が有効であることを伝え、さらに「熟議」のステップと要件について説明しました。

【後半 演習・講習】

はじめに、参加者は実際に「熟議」を体験しました。当センターの副主幹（兼）学習事業チームリーダー **柏木 睦** がファシリテーターをつとめ、「秋田県の子どもたちにどのように育ってほしいか」というテーマについて話し合いました。参加者全員が、自分に何ができるのかを考えられるように、「本県学校教育が目指すもの」「家族との会話・わが子との会話時間」の資料で、レディネスを揃える時間を「熟議」のはじめに設定しました。次に、アイスブレイク（全力でほめあおう！）で参加者の緊張感を和らげた後、3段階に設定されたラウンド（話し合いのステップ）ごとにグループのメンバーを入れ替えながら、話し合いを進めました。参加者は、付箋に書いた自分の考え（キーワード）を示しながら活発に意見交流していました。最後のラウンドでは、参加者がそれまでの話し合いを通して、印象に残っているキーワードを仲間分けすることにより、「ふるさと秋田」「自分を大切に」「交流・発信」「チャレンジ」が共通項として浮かび上がりました。



続いて、柏木が講師を担当し、「ファシリテーターに必要なスキルとは」と題した研修を行いました。「熟議」の際に示すスライドの意味や、進行する上での心得や手順等の説明の仕方など、ファシリテーターの役割をおさえました。「熟議」という言葉についてスライドで事前に投影しておくこと、参加者が当事者意識をもつことができれば「熟議」は成功であること、最後に「熟議」のイメージをしっかりと固めることなど、参加者が「熟議」ファシリテーターとして気をつけてほしい事柄について具体的な解説がありました。研修中も複数のワークショップを取り入れることで、参加者は楽しみながら「熟議」についての理解を深めている様子でした。

【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・またやりたい、もっと話し合いたいと思う話し合いはなかなかないので、もっと地域に広めていきたい。
- ・もっと勉強したくなりました。具体を想定してさらに研修したいです。
- ・話し合える研修は身近で楽しく感じます。地域のこと、子供のことを考える上で大切だと思いました。